



農業委員会だより

発行 中野市農業委員会

編集 農業委員会だより編集委員会



林芳正農林水産大臣との懇談会

農業委員会の活動について

会長 高橋幸造

農業委員会だよりの発刊に寄せて、一言ごあいさつを申し上げます。

日ごろ、農業委員会に対しまして、ご理解・ご協力を頂き、感謝申し上げます。

さて、農業を取り巻く情勢は、価格の低迷、担い手不足や農業者の高齢化、遊休荒廃農地の増加、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）問題など、大変厳しいものがあります。特に、昨年末から始まった円安による燃料や資材価格の高騰による生産コストの上昇により、施設栽培を中心とする本市農業にとりましては、極めて深刻な事態となっております。

また、国では自公連立政権が誕生し、日本農業の再生に向け攻めの農業を展開するとし、農業の多面的機能を評価した「日本型直接支払い」「経営所得安定制度」「平成の農地改革」など新たな施策検討が行われております。この中で、遊休荒廃農地の解消や担い手農家への農地の集積、集約のため（仮称）農地中間管理機構

を都道府県に設置し、所有者から農地を借受けて、機構が基盤整備などを行った上で、担い手へまとまった形で貸付ける方向で検討されています。このような中で、農業委員会では、農地法に関する許可、農地パトロールや遊休荒廃農地対策、国県市等へ農業施策、予算化等の意見・要望等、農業者の相談窓口として、意見集約や橋渡しなどを行っております。

本年度は、農地利用状況や荒廃農地の発生解消調査、トウモロコシ・菊芋の試験栽培、広域的な研修会、農林水産大臣や国会議員等への直接要望などに取り組んで参りました。今後も、農業者の代表として、かけがえのない農地を守り、担い手確保に努め、力強い農業農村を作るため、農村が抱える課題解決に向けた「架け橋」として、また、地域の世話役として積極的に活動し、本市農業の発展のため努めて参りますので、引き続き皆様方のご協力をお願い申し上げます。

振興部会の取り組み

振興部会長 中村 秀人

振興部会としてすでに一年が経過いたしました。この間、昨年より策定された「人・農地プラン」、あるいは市独自支援事業により、数十名の新規就農者が誕生し、今後の本市農業の一翼を担うことに喜びと熱い声援を送らせて頂きたいと思っております。

また、安倍政権が農業政策として打ち出す(仮称)農地中間管理機構が、農地集積と遊休荒廃地の復元・活用に十分な力を発揮されることを期待しております。

私たち振興部会としては、昨年より検討していた荒廃地の活用について、部会員全員が一步踏み出し、実践する年にしていききたいと思っております。

- ① 農業・農村の振興活動
中野市青年就農給付金(経営開始型)、市新規就農者支援事業の協議会への参画
- ② 遊休荒廃地の活用対策
長年荒廃地対策として取り組んでいる菊芋栽培と、それ以外で簡単な単年度収入品目として、新たにトウモ



▲トウモロコシの間引きの様子

- ロコシの契約栽培に取り組みました。
 - ③ 利用権設定の推進
 - ④ 担い手農家への農地集積推進
 - ⑤ 市内、近隣市町村の研修視察
 - ⑥ その他必要な活動
- 今後、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

農地部会の活動

農地部会長 池田 好明

農業は、食糧供給のほか、農地、水、自然環境の保全といった大切な役割を担っています。

現状では、就農者の高齢化、担い手不足による耕作放棄地が年々増加する中、農業委員会としてもよりよい方向に進むよう研究していく必要があると思っております。

実したものと異なるよう、農業委員補助員を設置するため、本年度から予算付けされました。耕作放棄地の解消への一助となるよう期待するところです。

我々農業委員は、地域農業を支える新規就農者の育成発展のため、国の政策支援を活用して、農業の活性化を図らなければなりません。

今年度の農地部会事業計画は、次のとおりです。

- ① 農地法遵守の指導
- ② 無断転用の防止活動
- ③ 農地パトロール実施
- ④ 無断転用農地と遊休荒廃農地の解消指導に従わない所有者に対する指導
- ⑤ 耕作放棄地をなくすための行政との連携会議
- ⑥ その他必要な活動

関係各位の御協力を御願い申し上げます。

農政部会の活動

農政部会長 北村 忠彦

アメリカ合衆国は、自由と民主主義の国だという。私もそう思う。しかし、本当は大企業と人口の1%位の大金持ちのための、自由と民主主義なのではないでしょうか。

TTP(環太平洋戦略的経済連携協定)という大津波が日本に迫っている今、自由と民主主義というのは大企業のものではなく、汗水たらして働く人たちのものでなくてはならないと思えます。

今年度の農政部会事業計画は、次のとおりです。

- ① 農政懇談会の開催および各種懇談会への参加
- ② 認定農業者の普及推進
- ③ 農業者年金への加入推進
- ④ 全国農業新聞の購読普及
- ⑤ 市内、近隣市町村の研修視察
- ⑥ その他必要な活動

今後、皆様のご支援ご協力をよろしくお願い致します。

一人ひとりの農業者を応援する

農業者年

国が支える 安心が大きくなる

担い手積立年金

農業者の老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。
農業者年金のご相談や加入の申し込みなどは、農業委員会もしくはJA中野市金融推進課へご相談ください。

農業委員研修視察に出席して

町田 利勝

中野市農業委員研修視察が8月21日、22日の2日間にわたって行われました。国会議事堂（衆議院）視察、外務大臣政務官を訪問、農林水産大臣との面談、長野県選出国会議員との懇談会など、内容の濃い研修視察となりました。

最初の国会議事堂視察は、篠原孝衆議院議員に案内していただきました。本会議場、予算委員会室等を見て周り、国民主権を銘記したひと時でした。

次に、外務大臣政務官の若林健太参議院議員にお会いし、仕事の内容、概略を説明していただきました。

更に、林芳正農林水産大臣とは30分間の面談となりました。



▲国会議員との懇談会

た。TPP交渉、（仮称）農地中間管理機構など、旬の事柄をお話ししていただきました。夜の懇談会は、若林健太外務大臣政務官と篠原孝衆議院議員をお迎えしての懇談会となりました。その中で、

- ・長野県農業（北信地域）、中山間地農業を産業として成立するようにしたい。
- ・長野県人は平均寿命が日本一。男性は80・88歳、女性は87・18歳。死ぬまで働き、「ぴんぴんころり」が望み。
- ・担い手対策、多面的機能の維持等の政策は政権交代でくるくる変わるのとはよくない。
- ・農薬の飛散、残留などにより発達障害も疑われる。
- ・鳥獣対策、地域ブランド力アップ、農業委員会の認識を改める必要があるなど、幅広く意見の交換がなされました。

農業の発展には農政の力が重要です。政治を監視する人も必要です。やる気のある人が、農業に参入できるようにすることはもつと必要であると強く感じたとこです。

農業委員研修視察に出席して

中島 源

今回の農業委員研修視察スキームは、「国会議員との農政懇談会」をテーマに、2日間の日程で行われました。

初日は、国会議事堂、外務大臣政務官室、農林水産大臣の研修視察を行いました。篠原孝衆議院議員の案内により、国会議事堂衆議院内、

予算委員会室、議院運営委員会室、衆議院議場などの見学と説明をいただき、臨場感を強く感じられました。



▲国会議事堂での研修視察

議事堂建設は、大正9年から昭和11年の完成まで、延べ17年の歳月が費やされたとのこと。中央塔真下中央広間は、4階吹抜けになっており、床から天井まで33畳もあり、その存在感には、圧倒されるものがありました。

また、廊下に敷き詰められた「赤い絨毯」は、延べ4キロにも及ぶとのこと。ちなみに、1坪4万円とか。引き続き、外務大臣政務官

室において、若林健太参議院議員から、政務官としての職務内容についての説明を受けました。

農林水産省では、林芳正農林水産大臣との懇談会が行われました。大臣からは、国内産木材の利活用についての政策説明、TPP、主に国家主権を損なう恐れのある「ISD」条項についての是非などの討論がなされました。

夜には、上野池之端「鷗外荘」において、篠原・若林両国会議員との農政懇談会を行いました。事前に質疑などについて、提起してありましたので、両議員とも資料を用意され、内容の濃いものとなりました。TPP、人・農地プランなど、両議院には日本農業に対する認識の差異は大きく、超党派の問題として、把握すべきであると認識するに至りました。

2日目の視察についても、岩崎邸庭園、東京スカイツリー、築地場外市場などバラエティーに富んだものでした。

改めて今回の視察は、江戸・明治・大正・昭和・平成と各時代を感じさせてくれた日本再発見の内容であったと思います。

北信五市農業委員研修会に出席して

町田 茂

去る8月29日に、北信五市の農業諸課題に対する情報交換と交流を目的として、農業委員約150名の出席のもと北信五市農業委員研修会が、アップルシティーなかので開催されました。

また、長野県農政部からは、「長野県農業の現状と課題・県農政の展開方向」と題して、今年度から始まる「第2期長野県食と農業農村振興計画の概要」と「TPPの状況と県内の影響額の試算」について講演がありました。

またで幅広く活動されている太田奈穂氏より、「野菜ソムリエになってく生産者と生活者の架け橋」と題して発表がありました。

研修会に出席して、今後、農業を取り巻く状況や農業政策などが大きく変わると思われますが、これらの変化に対応できる足腰のしっかりした地域農業を作りあげるため、地域の皆で考え、出来ることから実行して行く必要があると考えます。

また、この研修会において北信五市の農業委員が一堂に会し、情報交換出来たことは大変有意義であり、今後の活動に生かして参りたいと思います。

北信五市農業委員研修会に出席して

鈴木 俊彦

去る8月29日に、「アップルシティーなかの」において、北信五市の農業委員、約150名を迎え、さらに来賓に池田中野市長、長野県農業会議の飯島部長、市経済部の小林部長を迎えて開催されました。

池田市長が公務のため、横田副市長による歓迎の挨拶の後、長野県農業会議の農政・農地部長 飯島和久氏の御祝の挨拶では、政策のキーワー

ド、政策の目標、政策の推進体制、農業委員会に求められること、TPPをめぐる情勢等のお話がありました。

また事例発表は、須坂市農業委員の太田奈穂氏による「野菜ソムリエになってく生産者と生活者の架け橋」でありました。

また、この研修会において北信五市の農業委員が一堂に会し、情報交換出来たことは大変有意義であり、今後の活動に生かして参りたいと思います。



▲太田奈穂氏による事例発表

編集後記

編集委員長 小林 成雄

農業委員会では、農地パトロールを8月、9月と2カ月間にわたり行いました。また、今年度から農業委員補助員を設けて、農業委員とともに農地パトロールを実施しました。この調査の目的は、地域の農地利用の点検、遊休農地の発生防止や解消指導および違反転用防止対策などです。

遊休荒廃農地が年々増え続ける要因として様々なことがいえると思います。担い手の不足、農業従事者の高齢化、なかでも十数年にわたる農産物の価格低迷が大きな要因ではないかと思われま。これらの問題解決には、一概にはいきませんが、少しずつ地域農家の方々や関係機関、団体等の連絡を密にし解消に務めていかなければならないと思っています。

今後、農業委員会の職務や遊休農地解消のためご協力をお願いします。